



朝日の記事取り消しと原発の存在

朝日新聞で記事の修正取り消しが続いた。日曜ジジ通信二百号(五月二十五日)で、「五月二十日の朝日新聞によると『福島原発事故発生の四日目、二号炉圧力抑制プール付近で爆発音が発生。すると吉田所長の命令に反し、所員の九割が福島第二原発に避難』つまり逃げ出した。」と書いた。

しかし、吉田調書が公開されて、命令に反して第二原発に避難した訳では無かったことが明らかになった。

ジジ通信二〇〇号の当該箇所は取り消し、東電福島原発で第二原発に退避した方々にはお詫びします。

曖昧な命令

吉田調書によると吉田所長は「第一原発近辺に一時退避し指示待

て」のつもりだったが、第二原発に行けど伝言された。十キロ離れた第二原発に行ったら、すぐには何も出来ない。疑問も感じないで、行先も確認しなかったのは不思議だ。

東日本壊滅も

「水を入れられなければ東日本壊滅」と吉田所長は思ったそう

だ。

原発労働者は当然原発のことを良く知っている。その労働者がすぐには何も出来ない十キロ離れた所に退避することは、逃げ出したと云われないだろうか？

働く者が逃げ出さなければならぬ事態が生ずるのであれば、原発の存在こそが許されないのではないか？

みなさんはどう思われますか？

こどもログハウス

横浜市南区
永田みなみ台公園



輸入を増やすというかけ声で全国にログハウスが導入された。永田みなみ台公園にもログハウスが建てられた。

だが、私としては、ログハウスより、広い土間や、囲炉裏のある板の間があり、屋根裏を冒険できる古民家が良かったと思う。NHKの「花子とアン」の甲府の家も実感できる。

半世紀前、大磯の西部に引越した。近隣には同じようなたたずまいの農家も沢山あった。

午後二時過ぎに絵を描き始めた頃には殆ど子供達はいなくなった。三時半を過ぎて急に子供達が走り回るようになった。それも五時には潮が引くように帰って行った。

私が子供の頃、遊ぶ時間はもっと長かったように思う。こんな事で良いのだろうか。